

2010年1月28日

報道関係各位

ノバルティス (スイス) が発表しましたリリースの日本語訳 (抜粋) をご参考までにお届けします。

ノバルティスの2009年業績、過去最高を記録 —新製品の好調が全事業の成長を牽引—

新CEOにジョー・ジメネスを任命、経営組織を簡素化

- グループは全事業部門にわたりビジネスが拡大し利益率が向上して 2009 年の好業績に貢献:
 - 2009 年売上高は現地通貨ベースで前年比 11% 増の 443 億米ドル (米ドル前年比 7% 増)。革新的新薬により医薬品事業が業界トップレベルの成長率を実現したほか、ワクチン・診断技術関連事業部門が 1 億回分以上の A (H1N1) 新型パンデミックインフルエンザワクチンを販売
 - コア営業利益は 11% 増の 114 億米ドル、利益率は売上高の 25.8% に改善。事業拡大と生産性向上が寄与
 - コア純利益は前年比 8% 増の 103 億米ドルを達成; 前年比増収率は主としてアルコン社買収関連費用が影響してコア営業利益よりも低かった
 - 1 株当たり純利益 (コアベース) は前年比 8% 増の 4.50 米ドル
 - 配当前フリー・キャッシュフローは 24% 増の、94 億米ドル
- 30 品目以上の製品が承認取得。医薬品事業部門の開発パイプラインは豊富で、60 の新規化合物を含む 145 のプロジェクトが臨床段階にある
- 生産性向上にフォーカスした Forward プロジェクトにより目標額を 50% 上回る費用削減を実現、計画を 1 年前倒しで達成
- マラリアおよびハンセン病対策を含む“医薬品へのアクセス (Access-to-medicine)”プログラムの対象患者数は 2009 年に 8 千万人に達し、支援額は売上高の 3% にあたる 15 億米ドル
- 新経営陣任命で今後の成長路線確保
 - バセラは経営戦略に業務を集中し会長職に専念。取締役会はジョー・ジメネスを CEO に任命して経営層の組織を簡素化、2008 年以來のバセラ CEO 後継者問題が解決
 - ノバルティスは会社設立定款の報酬システムに consultative vote を盛り込んだスイス証券取引所における最初の大手上場企業となる
- 2009 年、年配当は 13 年間連続前年比増の 1 株当たり 2.10 スイスフランを提案
- 2010 年は、イノベーション、成長、生産性向上を核とする経営戦略上の優先課題遂行の年となる

イタリック体で示されたすべての製品名は、ノバルティス グループ企業が保有またはライセンス供与されている商標です。

主要数値

	通 年				
	2009年		2008年		前年比 (%)
	百万 米ドル	億円 ^{注2)}	百万 米ドル	米ドル	
売上高	44 267	41 168	41 459	7	11
営業利益	9 982	9 283	8 964	11	
純利益	8 454	7 862	8 163	4	
1株当たり純利益 (米ドル)	3.70	(円) 344	3.59	3	
コアベース^{注1)}					
営業利益	11 437	10 636	10 319	11	
純利益	10 267	9 548	9 501	8	
1株当たり純利益 (米ドル)	4.50	(円) 419	4.18	8	

注1) コアベースの営業利益、純利益および1株当たり純利益(EPS)は、無形資産償却費、減損費用(戻入を含む純額)、買収に伴う統合関連費用(買収価格配分の影響等)、2500万米ドル超の例外的項目の影響を控除した数値となっております。

注2) 日本円は、参考のため表示したもので、換算レートは原文リリース(英語版)P27.4.Principal Currency Translation Ratesを使用。1米ドル=93円(2009年1-12月の期中平均レート、小数点第1位を四捨五入)にて換算したものです。

	第4四半期				
	2009年		2008年		前年比 (%)
	百万 米ドル	億円 ^{注2)}	百万 米ドル	米ドル	
売上高	12 926	11 633	10 077	28	20
営業利益	2 637	2 373	1 680	57	
純利益	2 323	2 091	1 507	54	
1株当たり純利益 (米ドル)	1.01	(円) 91	0.66	53	
コアベース^{注1)}					
営業利益	3 204	2 884	2 090	53	
純利益	2 892	2 603	1 967	47	
1株当たり純利益 (米ドル)	1.26	(円) 113	0.86	47	

注1) コアベースの営業利益、純利益および1株当たり純利益(EPS)は、無形資産償却費、減損費用(戻入を含む純額)、買収に伴う統合関連費用(買収価格配分の影響等)、2500万米ドル超の例外的項目の影響を控除した数値となっております。

注2) 日本円は、参考のため表示したもので、換算レートは原文リリース(英語版)P27.4.Principal Currency Translation Ratesを使用。1米ドル=90円(2009年10-12月の期中平均レート、小数点第1位を四捨五入)にて換算したものです。

2010年1月26日、パーゼル発 — ノバルティス会長兼CEOのダニエル・バセラは、業績について次のようにコメントしています。「ノバルティスは、ヘルスケア関連ポートフォリオ全般にわたる高成長を実現し、2009年もすばらしい業績を達成しました。過去12カ月の間、私たちは新製品の承認で業界を継続的にリードし、米国、欧州、日本で主要30品目の承認を取得しました。生産性向上に向けた取り組みが、利益率改善と、イノベーションおよび成長戦略への投資資源確保につながりました。事業基盤の強化に継続的に取り組んでおり、特にアルコン社の完全子会社化によって、ノバルティスはアイケア領域のグローバルリーダーとなり、眼科領域における新たな成長基盤が構築されます。私は14年にわたりCEOの職にあり、一年以上も前にスタートした後継者問題を解決する絶妙のタイミングだと思います。取締役会は現在医薬品事業部門責任者のジョー・ジメネスを後継者としてCEOに任命しました。同時に経営陣の組織簡素化を実施することにも同意しました。ジョー・ジメネスは医薬品事業とコ

ンシューマービジネスの双方での国際的な経験と業績で、ノバルティスを次の成長路線へとリードして行くでしょう。私は2010年は大きな前進を遂げる年となると確信しています」

概要

2009年

業界トップクラスの市場シェア伸長率を示した医薬品事業の二桁成長が、2009年のグループのヘルスケア関連ポートフォリオを牽引し、過去最高業績の更新に導きました。ワクチン・診断技術関連事業は、公衆衛生上の脅威に対応するべく、A (H1N1) 型パンデミックインフルエンザワクチンの迅速な開発・供給を実施、著しい増収を達成しました。

売上高は、前年比7%増収（現地通貨ベース11%増収）の443億米ドルを記録しました。部門別には医薬品事業（現地通貨ベース12%増収）、ワクチン・診断技術関連事業（現地通貨ベース39%増収）、サンド（現地通貨ベース5%増収）、コンシューマーヘルス（現地通貨ベース5%増収）のすべての部門が現地通貨ベースで前年比売上増を達成しました。地域別では、欧州（184億米ドル、現地通貨ベース10%増）、米国（143億米ドル、現地通貨ベース11%増）に加え、ブラジル、中国、インド、ロシア、韓国、トルコからなる新興市場上位6カ国（40億米ドル、現地通貨ベース17%増）が好業績を収めました。売上高の前年比増加率には、販売量増加による10ポイント、買収および価格変動を合わせた1ポイントの寄与がありました。また、対2008年比米ドル高による2009年売上伸長率に対する影響はマイナス4ポイントでした。2009年の営業利益は、前年比11%増益の100億米ドルで、この結果、売上高営業利益率は2008年の21.6%から上昇し、22.5%となりました。前年に比べ進んだ米ドル高が、営業利益の伸び率を9ポイント押し下げました。2008年および2009年の業績から例外的項目ならびに無形資産償却費を控除したコア営業利益は、医薬品事業、ワクチン・診断技術関連事業における利益率改善と、全事業部門における生産性向上により、前年比11%増益の114億米ドルとなりました。コアベースの売上高営業利益率は、前年の25.0%から上昇し、25.8%となりました。

純利益は前年比4%増益の85億米ドルで、1株当たり純利益（EPS）は前年比3%増益の3.70米ドルとなりました。コア純利益は103億米ドル（8%増益）ですが、この伸び率は、関連会社からの収益拡大がアルコン社関連の資金調達コスト計上により一部相殺された結果、営業利益のそれを下回りました。コアEPSは2008年の4.18米ドルから増大し、2009年は4.50米ドルとなりました。

2009年第4四半期（10-12月）

ノバルティスは、全部門における経営改善と、前年同期に比べてより有利に働いた為替相場を反映して二桁の売上・利益成長を達成し、2009年を力強く締めくくりました。

売上高は前年同期比28%増収（現地通貨ベース20%増収）の129億米ドル。医薬品事業（現地通貨ベース13%増収）は、最近上市された製品の成長により、業界をリードする好業績を維持しました。ワクチン・診断技術関連事業（現地通貨ベース166%増収）の業績には、A (H1N1) 型パンデミックインフルエンザワクチンおよびアジュバントの売上高10億米ドルが含まれています。サンド（現地通貨ベース10%増収）の売上高は、9月に完了したEBEWEファーマ社のスペシャルティ・ジェネリック事業の買収により5ポイントの貢献を実現しました。コンシューマーヘルス（現地通貨ベース13%増）は、すべての事業で業績改善がみられましたが、なかでも米国で初のPrevacid24HR スイッチOTCを発売したOTC事業が好調でした。

営業利益は、前年同期比57%増益の26億米ドルとなりました。為替変動が有利に働き、プラスに5ポイント寄与しています。2009年第4四半期の売上高営業利益率は、前年同期の16.7%から改善し、20.4%となりました。2009年第4四半期のコア営業利益は、すべての部門が二桁増益を達成した結果、53%増益の32億米ドルとなりました。2009年第4四半期のコアベースの売上高営業利益率は、前年同期の20.8%から改善し、24.8%となりました。

純利益は前年同期比54%増益の23億米ドルとなり、1株当たり純利益（EPS）は前年同期の0.66

米ドルから同じく54%増益の1.01米ドルとなりました。コア純利益は、金融費用上昇ならびに関連会社からの収益低下を反映し、前年同期比47%増の29億米ドルに留まりました。2009年第4四半期のコアEPSは、前年同期の0.86米ドルから47%増益の1.26米ドルとなりました。

2009年は主要30品目以上の承認を達成

ノバルティスは、イノベーションへの長期的投資を通じてポートフォリオの転換を図っています。2009年は、新規医薬品のアフィニトール（がん）、*Onbrez Breezhaler*（慢性閉塞性肺疾患）、*Ilaris*（CAPS）や、A（H1N1）型パンデミックインフルエンザワクチン、日本・カナダにおける初のバイオシミラー、米国における*Prevacid24HR*スイッチOTCなど、主要30品目以上の承認を取得しました。また、2009年中に申請した主要品目には、*Gilenia*（FTY720、多発性硬化症）の米国・欧州申請のほか、*タシグナ*の新規適応症（CMLの一次治療）、*ゾメタ*（乳がんアジュバント療法）、*ルセンティス*（糖尿病性黄斑浮腫）などがあります。日本では2009年に6つの新薬承認を取得しましたが、2010年1月にはさらにエクア（別名*Galvus*）、エックスフォージ（高血圧症）、アフィニトールの3製品の承認を取得しました。2010年も数多くの承認申請が予定されていますが、そのうち最大5品目がアフィニトール（神経内分泌腫瘍）や開発プロジェクトであるSOM230（クッシング病）、LBH589（ホジキンリンパ腫）、EPO906（卵巣がん）などのオンコロジー製剤となる予定です。

組織の生産性を高める

ノバルティスはさらなる生産性向上および効率化に向けた取り組みを全事業活動の中に組み入れて、意思決定の迅速化をはかると同時に顧客や成長戦略にフォーカスするための資源確保につなげています。この取り組みにより2010年のグループの売上高営業利益率がさらに改善される見込みです。2007年後半に始動した、組織構造を簡素化し、ノバルティスの事業運営方法を再設計するためのグループ全体の取り組みであるForwardプロジェクトは、2007年からの累計で23億米ドル以上（2010年目標の16億米ドルを上回る）の費用削減を達成し、計画を1年前倒しで終了しました。

患者さんへのコミットメント

ビジネスの成功があってはじめて、ノバルティス グループ戦略の不可欠な要素である“世界中の患者さんへのコミットメント継続”が可能となります。2009年、ノバルティスの医薬品およびワクチンは、自社推計で世界9億3千万人以上の方々の治療や予防に用いられました。また、ノバルティスは、特にマラリア、ハンセン病、デング熱、治療抵抗性の結核といった“顧みられない疾患”に焦点を当てた主要なプロジェクトを通じて、発展途上国の患者さんをサポートしています。ノバルティスの“医薬品へのアクセス（Access-to-medicine）”プログラムを通じて、2009年には15億米ドル相当の治療薬が7,950万人の薬を必要とする患者さんに提供されました。

2010年の見通し：戦略的優先課題を遂行

2010年はバルティスにとって、ヘルスケア・ポートフォリオを通じ、世界中の患者さんおよび高齢化社会の高まるニーズに応えるべく、その戦略を遂行していく上で、大きな前進の年であると予測されます。

業界をリードする成長率

ノバルティスは、2010年も成長の勢いを継続するとともに、最近上市された製品の急速な売上成長および新興成長市場における的を絞った投資により、グループの売上高は現地通貨ベースで一桁台半ばの成長を達成できると予測しています。

医薬品事業は、最近上市された製品の急速な売上拡大、各地の市場ニーズに対応する新たな営業モデルの実施、高成長市場での事業拡大により、2009年に達成した販売量ベースの力強い成長を継続する見込みです。しかしながら、医療制度改革（特に米国・トルコ）ならびに日本での2年に一度の薬価改定などの業界特有の課題により販売価格が不透明な状況となっているほか、*ディオバンの*欧州（2011年）および米国（2012年9月）での特許失効を前に、2010年には同剤が属する薬効クラスにおいてジェネリック薬との競合が始まる見込みです。こうした要因を反映し、2010年の医薬品事業の売上高は、現地通貨ベースで一桁

台半ばから後半の伸びとなる見込みです。

ワクチン・診断技術関連事業は、髄膜炎菌性髄膜炎の4つの血清群に対して開発中のワクチンである*Menveo*の上市に向け、準備を進めています。2009年12月に肯定的見解が出された欧州での承認は2010年初めを見込んでおり、米国での当局決議も同年前半に得られると期待しています。ノバルティスは、2010年もA (H1N1) 型パンデミックインフルエンザワクチンならびにアジュバントの供給を継続する計画ですが、売上高は2009年の水準を大きく下回る見込みです。

サンドは、2010年、成長のペースをさらに加速する見込みです。2009年9月にEBEWEファーマ社のスペシャルティ注射剤事業がサンドのビジネスに加わったことにより、価格競争力のある高品質オンコロジー製剤へのアクセスが強固なものとなり、新たな世界的成長基盤が確立されました。

コンシューマーヘルスは、2010年も市場の伸びを上回る成長率を維持することを目標にしています。2009年末に*Prevacid24HR* を米国で上市し、頻繁な胸やけ痛適応で、同薬として初のOTC製品となり、重要な新規ブランドが誕生しました。ノバルティスは、Nycomed社からの権利取得後、もう一つのプロトンポンプ阻害剤であるパントプラゾールのOTC製品を2010年第2四半期に欧州14カ国で発売する予定です。

眼科領域の世界的リーダーである**アルコン社**の買収により、ノバルティスのヘルスケア関連ポートフォリオが強化されるとともに、世界的に急成長しつつある眼科領域でのプレゼンス拡大につながります。ノバルティスは2010年1月4日、アルコン社を完全子会社化する意向を対外発表しました。まず、2008年4月のネスレ社との合意に基づく77%の株式取得を完了し、次に株式交換により残りの23%の株式を取得する予定です。スイス合併法に基づき実施されるこの合併はすべての関係者の利益にかなうものであり、アルコン社の将来展望を開くものです。合併後、アルコン社はノバルティスの新たな一部門となり、チバビジョンならびに特定の医薬品事業の眼科領域製品がこれに併合されます。

取締役会が新CEOを選出、経営陣の組織を簡素化

取締役会は、これまで14年間にわたりCEOとして、また11年間にわたり会長兼CEOとしてノバルティスに貢献した現会長のダニエル・バセラの退任提案を受け入れ、ノバルティスのCEO後継者として現在医薬品事業部門の責任者であるジョー・ジメネスを任命しました。バセラは引き続き会長として経営戦略を中心に経営に携わります。これにより、2008年に暫定的なCOO職を置き、新しい事業部門経営陣を任命するというで始まった後継者問題が解決することになります。今日までにノバルティスの事業内容はヘルスケアに集約する戦略が成功し、研究開発重視の組織として社会に尊敬され、開発パイプラインは充実し、高く評価されています。また、その優れた経営陣により、製薬業界だけでなく、他の業界でも高く評価されています。新CEO任命は、このような意味でタイムリーであると言えるでしょう。

ジョー・ジメネスの任命は、取締役会が、彼のグローバルリーダーとしての能力、好業績を継続させた実績と国際的ビジネス経験、社員の心を掴み、明確なディレクションを示す能力を、高く評価したことによるものです。これらの資質はノバルティスの戦略を実行する上で欠かせないものです。ジョー・ジメネスのCEOとしての任務は、2010年2月1日にスタートします。

新しいノバルティス医薬品事業部門のヘッドには、現在ノバルティス医薬品事業部門のなかで最も急速な成長と遂げているノバルティス オンコロジー部門の責任者であるデビット・エプスタインが任命されました。

組織簡素化の一環として、ノバルティスの経営委員会のポストのうち、COO、Corporate Affairs Head、Group Quality/Technical Operations Headをなくすことにより、経営委員会メン

バーは12名から9名になりました。

事業概要

2009年

売上高

	2009年		2008年	前年同期比(%)	
	百万 米ドル	億円 ^{注1)}	百万 米ドル	米ドル ベース	現地通貨 ベース
医薬品	28 538	26 540	26 331	8	12
ワクチンおよび診断技術	2 424	2 254	1 759	38	39
サンド	7 493	6 968	7 557	-1	5
コンシューマーヘルス	5 812	5 405	5 812	0	5
売上高 合計	44 267	41 168	41 459	7	11

注1) 日本円は、参考のため表示したもので、換算レートは原文リリース(英語版) P27.4.Principal Currency Translation Ratesを使用。1米ドル=93円(2009年1-12月の期中平均レート、小数点第1位を四捨五入)にて換算したものです。

医薬品事業: 285億米ドル(8%増収、現地通貨ベース12%増収)

すべての地域および疾患領域が医薬品事業売上高の現地通貨ベース二桁成長に貢献しましたが、とくに、全売上高に占める比率が前年の10%から16%に上昇した最近の上市製品(47億米ドル、現地通貨ベース81%増)が牽引しました。中心となった新製品にはルセンティス、エックスフォージ、エクジェイド、Exelon Patch、Reclast/Aclasta、Tekturna/ラジレス、アフィニトール、Ilarisが含まれ、2009年の医薬品売上高の現地通貨ベースの前年比増加率12%に対し、8ポイント寄与しました。

オンコロジー領域(90億米ドル、現地通貨ベース14%増収)は、グリベック(39億米ドル、現地通貨ベース12%増収)ならびにそれぞれ10億米ドル以上の売上高を達成したゾメタ、フェマーラ、サンドスタチンの3製品の成長継続により、ノバルティス最大のフランチャイズを維持し、オンコロジー業界で世界第2位となっています。エックスフォージ、Tekturna/ラジレス(高血圧症)およびGalvus/エクア(2型糖尿病)は循環器・代謝領域(88億米ドル、現地通貨ベース9%増収)の売上拡大に寄与するとともに、ディオバン(60億米ドル、現地通貨ベース6%増収)を補完した結果、ノバルティスは高血圧症治療薬の世界トップ企業としての地位を強化しました。ルセンティス(12億米ドル、現地通貨ベース47%増収)、Exelon(9億5400万米ドル、現地通貨ベース22%増収)は、中枢神経・眼科領域(49億米ドル、現地通貨ベース12%増収)の成長を促進しました。

すべての地域が事業ポートフォリオ転換の恩恵を受けましたが、なかでも最大の売上がある欧州(105億米ドル、現地通貨ベース12%増収)では、最近上市された製品の割合が売上高の20%以上に達しました。上位業績を達成したその他の地域は、中南米およびカナダ(25億米ドル、現地通貨ベース13%増収)で、米国(95億米ドル、現地通貨ベース11%増収)はそれぞれ成長率を伸ばしました。ブラジル、中国、インド、ロシア、韓国、トルコの新興市場上位6カ国(26億米ドル、現地通貨ベース19%増収)は、すべての国が堅調な二桁成長を達成しました。

ワクチン・診断技術関連事業: 24億米ドル(38%増収、現地通貨ベース39%増収)

ワクチン・診断技術関連事業は、2009年4月に発生したA(H1N1)型インフルエンザの世界的流行に迅速に対応した結果、わずか数カ月間で世界各国の政府に1億回分以上のワクチンを供給することができ、2009年のパンデミックワクチンとアジュバントの売上高は10億米ドルとなりました。小児用ワクチンならびに新興市場における力強い売上成長が、季節性インフルエンザ・ワクチンに対する価格低下圧力と欧州におけるダニ媒介脳炎ワクチンの売上減少を補いました。診断技術関連事業の売上高は、わずかに減少しました。

サンド: 75億米ドル (1%減収、現地通貨ベース5%増収)

新製品の発売、成熟市場・成長市場の双方において、各国の事業にかなった戦略により一層集中したこと、また米国での事業が好転したことにより、2009年は前年を上回るペースで力強い成長を遂げました。顧客の利益にもなったと考えられる価格引き下げが7ポイントの減収要因となりましたが、新製品上市に伴う11ポイントの販売量増がこれを上回りました。ドイツのジェネリックおよびバイオシミラー事業（現地通貨ベース4%増収）は、厳しい市場環境のなか、新製品上市と販売量拡大により業界トップレベルの29%の市場シェアを獲得しました。また、2008年実績を8品目上回る合計25品目の新製品を上市したことが、米国のジェネリックおよびバイオシミラー事業（5%増収）の業績を支えました。アジア・パシフィック地域（現地通貨ベース17%増収）とロシア（現地通貨ベース19%増収）も上位の業績を収めました。2009年の増収に1ポイント貢献した9月のEBEWEファーマ社買収により、オンコロジー注射剤領域での強固な成長基盤が確立されました。

コンシューマーヘルス: 58億米ドル (0%増収、現地通貨ベース5%増収)

厳しい経済状況にもかかわらず、すべての事業が各市場の伸びを上回る成長率を達成しました。チバビジョンは新製品の好調が寄与し、コンタクトレンズおよびレンズケア業界で最も高い成長を遂げた企業となりました。OTC事業は、ポートフォリオの刷新ならびに2009年11月のPrevacid24HRの米国上市により、好業績を達成しました。動物薬事業は、米国で競合を上回る成長を収めました。

コア営業利益

	2009年			2008年		前年同期比 %
	百万 米ドル	億円 ^{注1)}	売上高 比(%)	百万 米ドル	売上高 比(%)	
医薬品	9 068	8 433	31.8	8 249	31.5	10
ワクチンおよび診断技術	719	669	29.7	309	18.1	133
サンド	1 395	1 297	18.6	1 421	18.8	-2
コンシューマーヘルス	1 118	1 040	19.2	1 125	19.4	-1
コーポレート収益/費用（純額）	-863	-803		-785		
コア営業利益 合計	11 437	10 636	25.8	10 319	25.0	11

注1) 日本円は、参考のため表示したもので、換算レートは原文リリース（英語版）P27.4.Principal Currency Translation Ratesを使用。1米ドル=93円（2009年1-12月の期中平均レート、小数点第1位を四捨五入）にて換算したものです。

医薬品事業

営業利益は前年比11%増益の84億米ドルとなり、売上高営業利益率は前年の28.8%から29.4%に上昇しました。販売量の力強い増加による現地通貨ベースでの売上拡大ならびに10億円近くに上る生産性向上効果により、コア営業利益（91億米ドル、前年比10%増益。為替によるマイナス影響6ポイントを含む）も売上高を大きく上回る成長を達成しました。この結果、コアベースの売上高営業利益率は0.3ポイント上昇し、31.8%となりました。

コア営業利益の改善はまた、主に2008年末のBetaseron[®]ロイヤリティ収入終了によるその他収入減少に伴う1.1ポイントの減益効果を吸収しました。売上拡大ならびに生産性向上により得られた資源の再投資により、新製品上市や中国などの新興市場上位国での急速な事業拡大に対する大規模投資が可能となりました。生産性向上効果がGalvus/エクア、Exelon Patch、Valturna、Tekturna/ラジレスなどの数多くの新製品群の世界各地での上市費用を上回った結果、2009年の売上高に対する販売費の比率は1.6ポイント減少し、29.3%となりました。研究開発費は2009年に開始した14件の新規第Ⅲ相試験などに投入され、売上高に対する比率は2008年の20.3%から2009年は20.0%になりました。2009年のコア営業利益から控除された合計6億7600万米ドル（2008年控除額の6億7000万米ドルからほぼ横ばい）には、Trileptalのマーケティング慣行に対する米国連邦政府捜査を解決するための係争中案件の一環としての裁判費用引当金の増加額3億1800万米ドルが含まれています。また、2009年決

算では、米国外における*Famvir*の売上好調継続を受け、2007年に計上した同製品に関わる減損費用を一部戻入れた結果、1億米ドルの一時的利益が計上されました。

ワクチン・診断技術関連事業

営業利益は2008年の7800万米ドルから大きく増大し、3億7200万米ドルとなりました。売上高営業利益率は2008年の4.4%から15.3%に上昇しました。2009年のコア営業利益7億1900万米ドルには、2009年前半に実施した開発・製造への大規模投資により可能となったA（H1N1）型パンデミックインフルエンザワクチンの売上が大きく貢献しています。新型インフルエンザワクチンの臨床試験ならびに開発後期の髄膜炎ワクチンへの投資により、2009年の売上高に対する研究開発費の比率は前年からさらに上昇しました。2008年業績にはA（H5N1）型インフルエンザワクチンの大規模供給に伴う売上高が含まれていました。

サンド

営業利益は前年比1%減の11億米ドルで、これには11ポイントの為替のマイナス影響が要因として含まれ、売上高営業利益率は前年比横ばいの14.3%となりました。コア営業利益は前年比2%減の14億米ドルとなりました。主要市場におけるさらなる事業強化と、特に営業・マーケティング部門および研究開発部門における生産性の向上が、全体のコスト水準を引き下げるとともに成長市場や新製品への投資を可能にしました。しかしながら、大幅な価格の引下げと為替によるマイナス影響がこうした利益改善効果を大きく上回り、コアベースの売上高営業利益率は前年から0.2ポイント低下し、18.6%となりました。

コンシューマーヘルス

為替影響が10ポイントの減益要因となり、営業利益は前年比3%減の10億米ドルとなりました。2009年の売上高営業利益率は0.5ポイント低下し、17.5%となりました。コア営業利益は、現地通貨ベースでの力強い売上拡大と生産性向上の貢献がありましたが、為替によるマイナス影響やOTC製品*Prevacid24HR*の米国上市のための大型投資があり、前年比1%減益の11億米ドルとなりました。この結果、2009年のコアベースの売上高営業利益率は2008年の19.4%からわずかに低下し、19.2%となりました。

コーポレート収益／費用

コーポレート収益、費用の増加は、主に年金関連費用の上昇に伴うものです。

2009年第4四半期（10-12月）

売上高

	2009年第4四半期		2008年第4四半期	前年同期比(%)	
	百万米ドル	億円 ^{注1)}	百万米ドル	米ドルベース	現地通貨ベース
医薬品事業	7 773	6 996	6 430	21	13
ワクチンおよび診断技術	1 387	1 248	491	182	166
サンド	2 143	1 929	1 804	19	10
コンシューマーヘルス	1 623	1 461	1 352	20	13
売上高	12 926	11 633	10 077	28	20

注1) 日本円は、参考のため表示したもので、換算レートは原文リリース（英語版）P27.4.Principal Currency Translation Ratesを使用。1米ドル=90円（2009年10-12月の期中平均レート、小数点第1位を四捨五入）にて換算したものです。

医薬品事業：78億米ドル（21%増収、現地通貨ベース13%増収）

新製品の急激な売上拡大ならびにすべての主要市場における成長継続により、2009年第4四半期もダイナミックな売上成長が継続されました。2009年第4四半期の最近上市された製品の売上高は14億米ドルとなり、医薬品売上高に占める割合は前年同期の12%から18%に上昇しました。最近上市された製品は、医薬品売上高の現地通貨ベース増加率13%に対し、8ポイント貢献しました。2009年第4四半期の新製品上市には、11月の欧州承認後に行われたOnbrez Breezhaler（COPD）のドイツ発売があります。

最近上市された製品がオンコロジー領域（25億米ドル、現地通貨ベース14%増収）の業績に大きく寄与しました。2009年承認の新規抗がん剤アフィニートル（3200万米ドル）と、タシグナ（6800万米ドル、現地通貨ベース101%増収）の有用性をサポートする新たな臨床データも好業績に貢献しました。循環器・代謝領域（24億米ドル、現地通貨ベース10%増収）では、糖尿病治療薬Galvus/エクア（6600万米ドル、現地通貨ベース211%増収）の急速な売上拡大が寄与したほか、ディオバンの主要全市場における売上拡大ならびにTekturna/ラジレス、エックスフォージを含む配合剤の発売により、ノバルティスは世界のブランド高血圧症治療薬市場におけるシェアを拡大しました。眼科薬のルセンチス（3億7400万米ドル、現地通貨ベース44%増収）も大幅な増収を継続しました。

欧州（29億米ドル、現地通貨ベース14%増収）は最大の売上を上げる地域としての地位を固めました。また、米国（25億米ドル、現地通貨ベース12%増収）も増収となったほか、日本では引き続き2009年に行われた新製品上市の貢献がありました。新興市場上位6カ国（7億1200万米ドル、現地通貨ベース22%増収）は、中国、ロシア、インドでの売上拡大がトルコにおける最近の医療費削減政策によるマイナス影響を上回った結果、急激な増収を示しました。

ワクチン・診断技術関連事業：14億米ドル（182%増収、現地通貨ベース166%増収）

2009年第4四半期の売上高のうち10億米ドルが、A（H1N1）型パンデミックインフルエンザワクチンおよびアジュバントの供給に伴うものです。季節性インフルエンザワクチンが価格低下の影響を受ける一方、小児用ワクチンの売上拡大がダニ媒介脳炎ワクチンの売上減少を補いました。

サンド：21億米ドル（19%増、現地通貨ベース10%増）

主要市場における堅実な伸びは2009年の年間を通じて一貫して見られましたが、特に9月に完了したEBEWEファーマ社の買収は2009年第4四半期の売上増加率に対し、さらに5ポイントの貢献をしました。米国のジェネリックおよびバイオシミラー事業（24%増）は、前年よりも多くの新製品上市の実現が寄与し、2009年に3四半期連続売上増を達成しました。ド

イツのジェネリックおよびバイオシミラー事業（現地通貨ベース1%増収）は、悪化する市場環境のなか、競合他社をさらに引離す伸びをみせました。主な成長市場ではアジア・パシフィック地域（現地通貨ベース10%増）を中心に売上拡大を継続しました。

コンシューマーヘルス: 16億米ドル（20%増収、現地通貨ベース13%増収）

すべての事業が非常に力強い成長を示しましたが、なかでも11月の*Prevacid24HR*米国上市と感冒薬の需要拡大があり、現地通貨ベースで二桁の売上成長を達成したOTC事業が好調でした。コンタクトレンズ新製品の好調継続がチバビジョンの業績を下支えする一方、動物薬事業は米国で市場シェアを拡大しました。

コア営業利益

	2009年第4四半期			2008年第4四半期		前年同期比 %
	百万米 ドル	億円 ^{注1)}	売上高比 (%)	百万米 ドル	売上高比 (%)	
医薬品事業	2 215	1 994	28.5	1 803	28.0	23
ワクチンおよび診断技術	653	588	47.1	55	12.5	NM
サンド	356	320	16.6	296	16.4	20
コンシューマーヘルス	248	223	15.3	209	15.5	19
コーポレート収益/費用（純額）	-268	-241		-273		
コア営業利益	3 204	2 884	24.8	2 090	20.8	53

注1) 日本円は、参考のため表示したもので、換算レートは原文リリース（英語版）P27.4.Principal Currency Translation Ratesを使用。1米ドル=90円（2009年10-12月の期中平均レート、小数点第1位を四捨五入）にて換算したものです。

医薬品事業

営業利益は前年同期比22%増益の19億米ドルとなり、売上高営業利益率は前年同期から0.2ポイント改善し、24.5%となりました。コア営業利益は前年同期比23%増益となり、売上高の伸び率を大きく上回りましたが、これには4ポイントの為替によるプラス影響が含まれます。

新製品上市、主要開発プロジェクト、事業の地理的拡大への投資を行いました。現地通貨ベースで13%の増収を達成した力強い事業拡大と生産性向上の取り組みが奏効したことにより、コア営業利益は二桁成長を達成しました。売上高に占める販売費の比率は前年同期から3ポイント低下し、30.3%となりました。研究開発費についても生産性向上の取り組みが功を奏しましたが、オンコロジー領域や生物製剤、分子診断への投資を行った結果、売上高に対する比率は前年同期とほぼ横ばいの21.0%となりました。この結果、コアベースの売上高営業利益率は前年同期から0.5ポイント上昇し、28.5%となりました。売上原価率は、当四半期におけるルセンティスのロイヤリティ増加や、在庫削減プログラムの加速に伴う短期的影響により、前年同期から2.7ポイント上昇し、18.1%となりました。2009年第4四半期のコア営業利益から控除された例外的項目3億900万米ドルには、*Trileptal*の過去のマーケティング慣行に対する米国連邦政府捜査に関わる係争中案件の一環としての裁判費用引当金の増加額 3億1800万米ドルや、*Famvir* に関して2007年に計上した減損費用を、米国外におけるその間の力強い売上増加に伴い一部戻入れたことによる一時的利益1億米ドルが含まれます。前年同期のコア営業利益算出のために行われた調整は、例外的項目2億4100万米ドルの控除です。

ワクチン・診断技術関連事業

営業利益は前年同期の2600万米ドルから5億8300万米ドルに増大。2009年第4四半期のコア営業利益6億5300万米ドルには、2009年初期に実施した開発・製造への大規模投資により可能となった、A (H1N1) 型パンデミックインフルエンザワクチン売上による例外的貢献が反映されています。

サンド

為替の影響が7ポイントの減益要因となり、営業利益は前年同期比11%増の2億2100万米ド

ルとなりました。コア営業利益はスケールメリットならびに米国での成長拡大により、前年同期比20%増の3億5600万米ドルとなりました。この結果、コアベースの売上高営業利益率は0.2ポイント改善し、16.6%となりました。2008年第4四半期の9600万米ドルに対し、2009年第4四半期のコア営業利益からは、買収関連費用の増加額および例外的項目の合計1億3500万米ドル（EBEWEファーマ社の買収費用、ドイツでの事業再編費用を含む）が控除されています。

コンシューマーヘルス

2009年第4四半期の営業利益は、為替によるプラス影響が9ポイントあり、前年同期比9%増益の2億700万米ドルとなりました。しかしながら、売上高営業利益率は1.3ポイント低下し、12.8%となりました。減損ならびにその他の例外的費用の前年同期からの増加額22百万米ドルを控除したコア営業利益は、生産性向上と原価管理により *Prevacid24HR* 米国上市のための販売・マーケティング投資および研究開発プロジェクトへの資源確保につながった結果、19%増の2億4800万米ドルとなりました。この結果、コアベースの売上高営業利益率は0.2ポイント減少し、15.3%となりました。

コーポレート収益／費用（純額）

2009年第4四半期のコーポレート費用（純額）は、有利な為替影響と金融資産売却益が、年金関連費用の増加を上回った結果、前年同期からわずかに減少しました。

医薬品事業製品別業績

注: 売上高の増減率は、現地通貨ベースの2009年1～12月期業績に関するものです。

循環器・代謝領域

ディオバン（60億米ドル、現地通貨ベース6%増）は、高血圧患者さん、心筋梗塞後ハイリスク患者さん、および心不全患者さんの治療薬として承認されている唯一のアンジオテンシン受容体拮抗薬（ARB）であることから、全世界で堅調な売上増を達成しました。ディオバンは、日本では年間売上高の20%を占めており、ヨーロッパでも、ARBのロサルタンの後発品の上市予定が2010年上半期にずれこんだため、売上増となりました。米国（4%増）では、他のクラスの降圧薬でジェネリック医薬品の使用が増加したため、降圧薬の市場が全体的に縮小したにもかかわらず、ディオバンはARB市場セグメントでトップの位置をより強固なものとししました。

エックスフォージ配合錠（6億7100万米ドル、現地通貨ベース72%増）は、アンジオテンシン受容体拮抗薬ディオバン（一般名：バルサルタン）とカルシウム拮抗薬アムロジピンの配合剤です。本剤は、2007年の上市以降、市場の成長を上回る成長を達成しており、降圧薬の配合剤の新たなスタンダードになっています。*Exforge HCT* は、本剤に利尿薬を加えた3成分配合の錠剤で、2009年4月に米国で上市されました。なお、*Exforge HCT* は2010年1月に日本で承認を取得しました。

Tektura/ラジレス（2億9000万米ドル、現地通貨ベース104%増）は、新しいクラスの降圧薬である直接的レニン阻害剤で、24時間以上にわたる持続的な降圧効果と、ACE阻害剤であるラミプリルに対し優位性を示した臨床データに基づき、2007年に上市されて以来、着実に売上を伸ばしています。本剤とディオバン（一般名：バルサルタン）の配合剤である *Valturna* が2009年後半に米国で上市されたことで、*Tektura/ラジレス*の有効成分アリスキレンを含有する配合剤が1種類増えたこととなります。アリスキレンとアムロジピンの配合剤は、2009年に米国と欧州で承認申請されており、2010年には、アリスキレンにアムロジピンと利尿剤を加えた3剤の配合剤の承認申請を予定しています。

Galvus/Eucreas（1億8100万ドル、現地通貨ベースで327%増）は、2型糖尿病の経口治療薬で、2007年にヨーロッパ、中南米、アジア・パシフィックの多くの市場で上市されて以来、急速に売上を伸ばしています。*Galvus* と売上の大半を占める *Eucreas* (*Galvus* とメトホルミンの配合剤)

は、いくつかの国の DPP-4 阻害薬市場で競合品を上回る売上を達成しています。なお、Galvus は、日本でも 2010 年 1 月にエクアという商品名で承認されました。

オンコロジー領域

グリベック (39億米ドル、現地通貨ベース12%増) は、慢性骨髄性白血病 (CML) および消化管間質腫瘍 (GIST) の標的治療薬であり、新しい臨床データと規制当局からの承認が後押しとなり、これらの疾患の主要な治療薬としての位置づけを基盤に二桁の成長を維持しています。直近では、GIST手術後の補助療法薬として承認され、現在、北米、欧州、アジア・パシフィック地域の55以上の国々で、同適応に対する承認を取得しています。

タシグナ (2億1200万米ドル、現地通貨ベース145%増) は、グリベックを含む前治療に抵抗性もしくは不耐容の慢性骨髄性白血病 (CML) の患者さんに対する二次治療薬として、既に80カ国以上の国で承認され、急速に成長しています。グリベックを対照薬として実施された直接比較試験としては最大規模である、初発のCML患者さんを対象とした国際ENESTnd試験の結果が発表され、タシグナを投与した場合、グリベックと比較して、より迅速かつ優れた効果が認められたことから、2009年12月には、CMLの一次治療薬としてタシグナの承認申請を米国と欧州の規制当局に提出しました。現在、グリベックの投与に対しsuboptimal (効果は得られているが、長期予後の観点から病態が進行するリスクを伴う状態) であったCML患者さんに対するタシグナの投与について評価する臨床試験や、GIST患者さんを対象とした第Ⅲ相臨床試験が進行中です。

ゾメタ (15億米ドル、現地通貨ベース9%増) は、骨転移を起こしたがん患者さんに対するビスホスホネート静脈注射剤で、既存の適応におけるコンプライアンスの改善と使用の増加により成長を続けています。2009年末には、閉経前の乳がん患者さんに対する再発抑制効果のデータに基づき、乳がん術後療法薬としての承認申請を米国と欧州の規制当局に提出しました。他のがん種における再発抑制効果を検証する臨床試験も複数進行中です。

フェマーラ (13億米ドル、現地ベース16%増) は、ホルモン感受性乳がんの患者さんに対する経口治療薬で、イニシャル・アジュバント療法において処方が伸び、2009年も力強い成長を続けました。2009年8月にThe New England Journal of Medicine誌に掲載されたBIG 1-98試験の結果では、閉経後ホルモン感受性早期乳がんの術後療法として、タモキシフェンに比べてフェマーラによる5年間の治療が望ましい治療法であることが立証されました。これらのデータは、製品情報として掲載されることを目的に、米国と欧州の規制当局に提出されました。

サンドスタチン (12億米ドル、現地通貨ベース7%増) は、先端巨大症や消化管および膵臓の神経内分泌腫瘍の治療薬で、売上のほぼ90%を占める月1回投与のサンドスタチンLARの使用増加により成長しました。最近発表された臨床試験データによると、サンドスタチンLARの投与を受けた中腸の転移性神経内分泌腫瘍患者さんに有意な進行抑制効果が示されており、このデータを基に、米国National Comprehensive Cancer Network (NCCN) の神経内分泌腫瘍の治療ガイドラインが最近更新されています。

エクジェイド (6億5200万米ドル、現地通貨ベース27%増) は、90カ国以上で承認されている、輸血による慢性鉄過剰症に対する唯一の1日1回経口投与治療薬です。2009年には、米国、カナダ、欧州、およびスイスの規制当局から、新規用量として40mg/kg 投与の承認を取得しました。この新規用量は、より高用量の投与による鉄キレートが必要な患者さんにとっての新しい治療の選択肢となっています。ノバルティスは、2009年半ば、全世界の保健当局に対して新たな安全性情報を提出しました。11月には欧州で新しいラベルが承認され、エクジェイドの投与が適切な骨髄異形成症候群 (MDS) や悪性腫瘍の患者さんを選択する新たなガイダンスとなっています。また、米国と日本の規制当局もこのデータを検討中です。

アフィニトール (7000万米ドル) は、経口のmTOR阻害剤であり、VEGF標的療法後に進行した転移性腎細胞がん (RCC) に対する治療薬として、2009年に米国、欧州、およびスイスで承認

されました。現在、アフィニトールに対しては複数のがん種で研究が行われています。神経内分泌腫瘍（NET）、乳がん、リンパ腫、結節性硬化症（TSC）と胃がんに対する第Ⅲ相試験が進行中です。神経内分泌腫瘍（NET）と結節性硬化症（TSC）を対象とした本剤の臨床試験の結果によっては、2010年中に、この2つの適応に対する承認申請を予定しています。2010年はじめには、肝細胞がん（HCC）に対する後期臨床試験を開始する予定です。エベロリムス（一般名）は移植時の免疫抑制剤サーティカンの有効成分でもあります。

その他の医薬品

ルセンチス（12億米ドル、現地通貨ベース47%増）は、現在80カ国以上で承認されている眼疾患のバイオ医薬品で、フランス、イギリス、オーストラリア、日本での好調により、引き続き売上が拡大しました。ルセンチスは、50歳以上の主要な失明原因である「滲出型」加齢黄斑変性症の患者さんにおける視力の維持ならびに改善の効果が証明された唯一の治療薬です。また、ルセンチスは2009年12月に、糖尿病性黄斑浮腫（DME）による視力障害の治療薬として承認申請を欧州の規制当局に提出しました。DMEは糖尿病の長期罹患と関連があり、失明にいたることもある眼疾患です。また、その他の眼疾患に対する後期臨床試験も進行中です。米国における権利は、ジェネンテック社が保有しています。

Exelon/Exelon Patch（9億5400万米ドル、現地通貨ベース22%増）は、軽度から中等度のアルツハイマー型認知症およびパーキンソン病に伴う認知症の治療薬です。2007年末に発売され、現在世界60カ国以上で販売中のまったく新しい貼付薬**Exelon Patch**が、現在では売上高の半分以上を占めています。

Reclast/Aclasta（4億7200万米ドル、現地通貨ベース88%増）は、骨粗しょう症の治療に用いられる年1回投与の注入剤であり、点滴センターの利用者増加や様々なタイプの骨粗しょう症患者さんの使用により、引き続き売上増となりました。同剤は、男性および閉経後女性の骨粗しょう症治療を含む最大6つの適応が承認されています。

ゾレア（3億3800万米ドル、現地通貨ベース65%増）は、ぜんそく治療のバイオ医薬品であり、米国では中等度から重度の難治性ぜんそく、欧州では重度の難治性アレルギー性ぜんそくが適応となっています。2009年初めに承認を取得した日本を含む80カ国以上で承認され、着実に売上を伸ばしました。2009年8月には欧州で重度の難治性ぜんそくを患う6～11歳の小児患者さんへの使用が承認されています。米国では、ノバルティスはゾレアをジェネンテック社と共同で販売促進しており、営業利益を按分しています。2009年のジェネンテック社の米国内売上高は5億7100万米ドルでした。

サーティカン（1億1800万米ドル、現地通貨ベース31%増）は、臓器移植後に用いる免疫抑制剤で、70カ国以上の国で販売されるようになったことが原動力となり、堅調に売上を伸ばしました。米国で、本剤は成人腎移植患者さんにおける腎移植後の拒絶反応の予防を目的として**Zortress**の商品名で承認を申請していましたが、2009年12月、それに対する審査完了報告通知がFDAから出されました。FDAの通知内容は、主として製品のラベリング、REMS（Risk Evaluation and Mitigation Strategy：リスク評価・軽減対策）、および安全性情報の更新に関するもので、追加の臨床試験の実施は要求されませんでした。本剤の有効成分はアフィニトールと同じエベロリムスで、優れた免疫抑制効果を示し、副作用も対処可能なものです。

Extavia（4900万米ドル）は、再発性多発性硬化症（MS）の治療薬であり、2009年には、米国をはじめ、20カ国以上で販売されています。この薬により、ノバルティスはMS市場に参入しました。Extaviaは、Betaferon[®]/Betaseron[®]をノバルティスが自社ブランド化した製品です。

Ilarisは、炎症性サイトカインIL-1βの作用を阻害する完全ヒト型モノクローナル抗体（fully human monoclonal antibody）で、CAPS（クリオピリン関連周期性症候群）の患者さんに対する治療薬として2009年に米国、欧州、およびその他の数カ国で承認され、発売が開始されました。CAPSは、生涯継続し、死に至る可能性もある希少な自己炎症性疾患です。難治性痛風、COPD（慢性閉塞

性肺疾患)、2型糖尿病、全身型若年性突発性関節炎 (SJIA) などIL-1 β が重要な役割を果たすと考えられている他の疾患についても臨床試験が進められています。

研究開発アップデート

ノバルティスは現在、60の新規化合物を含む、145の臨床開発プロジェクトを有しており、業界で最も競争力ある医薬品開発パイプラインを持つ企業の一つです。

医薬品事業

AIN457は、ぶどう膜炎、乾癬、関節リウマチなどの多様な疾患において炎症の主要なトリガーであるインターロイキン17Aの作用を阻害する完全ヒト型モノクローナル抗体です。2009年11月には特定の型のぶどう膜炎に対する治療薬として第III相試験を開始し、2010年の承認申請をめざしています。

Gilenia (FTY720、一般名：fingolimod)は、多発性硬化症に対する1日1回の経口治療薬として開発が進められており、2009年12月に、米国と欧州で承認申請を行いました。臨床試験では、2,300名以上のMS患者さんがFTY720を安全に服用しており、服用6年目を迎える患者さんもいます。

QAB149 (一般名：indacaterol)は、COPD (慢性閉塞性肺疾患) の成人患者さんに対する1日1回投与の長時間作用性気管支拡張薬です。2009年11月に欧州で**Onbrez Breezhaler**として承認され、12月にはドイツで販売が開始されました。**Onbrez Breezhaler**は、既存の治療法に比べ、呼吸機能、息切れ、QOL (生活の質) を大幅に改善することが示されています。また、欧州においては7年以上ぶりに新たに投入されたCOPD治療に対する吸入薬です。米国では、2009年10月に審査完了報告通知によって示された課題の対応に向け、引き続きFDAと協力しています。

ワクチン・診断技術関連事業

Menveoは、髄膜炎で多くみられる4つの血清群A、C、W-135、Yの予防を目的とした新規ワクチンとして開発が進められています。現在、2010年はじめの、青年 (11歳以上) および成人への使用を開始するという、米国と欧州の規制当局による決定を待っているところです。2009年12月には、欧州の規制当局は承認を支持する肯定的な見解を発表しました。他の年齢集団でも臨床試験が進められています。

MenBは、血清群Bによる髄膜炎菌性髄膜炎を予防するワクチンとして開発が進められています。欧州で実施している第III相試験は、患者さんの登録が完了しており、2010年の承認申請に向けて順調に進んでいます。欧州では、血清群B髄膜炎菌による髄膜炎菌性感染症が全体の約70%を占めると推定されており、感染リスクが最も高いのは乳幼児です。第II相試験の結果は、**MenB**が生後6カ月の乳児も保護できる最初のワクチンとなる可能性を示しています。米国では、第III相試験の適用範囲を決定するFDAとの協議が2010年に予定されています。

免責条項

本リリースには、現時点における将来の予想と期待が含まれています。従って、その内容に関して、また、将来の結果については、不確実な要素や予見できないリスクなどにより、将来の結果が現在の予想と異なる場合があることをご了解下さい。なお、詳細につきましては、ノバルティスが米国証券取引委員会に届けておりますForm 20-Fをご参照下さい。

ノバルティスについて

ノバルティスは、ヘルスケアにおける世界的リーダーです。革新的な新薬、高品質かつ安価なジェネリック医薬品、予防のためのワクチン・診断関連事業、そしてコンシューマー向けの一般用医薬品、コンタクトレンズ、動物用医薬品など、幅広い分野の製品を提供しています。ノバルティス グループ全体の2009年の売上高は443億米ドル、研究開発費は75億米ドルでした。スイス・バーゼル市に本拠を置くノバルティスは、約100,000人の社員を擁しており、世界140カ国以上で製品が販売されています。詳細はインターネットをご覧ください。<http://www.novartis.com>

参考資料：2009年1月～12月医療用医薬品の売上上位20製品（無監査）注）日本円は参考のため表示したものである。換算レートは、原文リリース（英語版）P.27.9.Principal Currency Translation Ratesを使用。1米ドル＝93円（2009年1-12月の期中平均レート、小数点第1位を四捨五入）にて換算したものである。

製品名	適応症	米国			米国以外			合計			
		百万 米ドル	億円	前年同期比	百万 米ドル	億円	前年同期比	百万 米ドル	億円	前年同期比	
				現地通貨 ベース(%)			現地通貨 ベース(%)			米ドル ベース	現地通貨 ベース(%)
ディオレンコディオ	高血圧症	2 492	2 318	4	3 521	3 275	7	6 013	5 593	5	6
グリベック	慢性骨髄性白血病	1 088	1 012	21	2 856	2 656	9	3 944	3 668	7	12
ゾメタ	悪性腫瘍による骨転移	718	668	8	751	698	9	1 469	1 366	6	9
フェマーラ	乳がん	572	532	18	694	645	14	1 266	1 177	12	16
ルセンティス	加齢性黄斑変性症				1 232	1 146	47	1 232	1 146	39	47
サンドスタチン	先端巨大症	458	426	6	697	648	8	1 155	1 074	3	7
Exelon/Exelon Patch	アルツハイマー病	362	337	30	592	551	18	954	888	17	22
ネオーラル/サンディミュン	移植	90	84	-8	829	771	0	919	855	-4	-1
ボルトレン (OTC 除く)	炎症/疼痛	5	5	0	792	737	1	797	742	-2	1
エックスフォージ	高血圧症	229	213	53	442	411	83	671	624	65	72
トップ10 製品 計		6 014	5 595	11	12 406	11 538	13	18 420	17 133	9	12
エクジェイド	慢性鉄過剰症	247	230	16	405	377	34	652	607	23	27
ローコール	高コレステロール血症	121	113	-21	442	411	-8	563	524	-13	-11
コムタン/Stalevo	パーキンソン病	217	202	9	337	313	17	554	515	10	14
Reclast/Aclasta	骨粗鬆症	328	305	84	144	134	97	472	439	86	88
リタリン/Focalin	注意力欠如障害/多動症候群	343	319	-1	106	99	21	449	418	2	4
テグレートール	てんかん	91	85	-38	284	264	-1	375	349	-17	-13
Foradil	ぜんそく	14	13	0	343	319	3	357	332	-8	3
Myfortic	移植	135	126	42	218	203	22	353	329	22	28
ゾレア	ぜんそく	90	84	181	248	231	45	338	315	60	65
Lotrel	高血圧症	322	299	-17				322	299	-17	-17
トップ20 製品 計		7 922	7 371	10	14 933	13 889	13	22 855	21 260	9	12
その他製品		1 620	1 507	13	4 063	3 779	10	5 683	5 286	7	11
医薬品売上高 計		9 542	8 878	11	18 996	17 668	12	28 538	26 546	8	12

参考資料：2009年10月～12月医療用医薬品の売上上位20製品（無監査）注）日本円は参考のため表示したものである。換算レートは、原文リリース（英語版）P.27.4.Principal Currency Translation Ratesを使用。1米ドル＝90円（2009年10-12月の期中平均レート、小数点第1位を四捨五入）にて換算したものである。

製品名	適応症	米国			米国以外			合計			
		百万 米ドル	億円	前年同期比	百万 米ドル	億円	前年同期比	百万 米ドル	億円	前年同期比	
				現地通貨 ベース(%)			現地通貨 ベース(%)			米ドル ベース	現地通貨 ベース(%)
ディオニン/コディオ	高血圧症	650	585	7	964	868	9	1 614	1 453	14	8
グリベック	慢性骨髄性白血病	303	273	22	783	705	10	1 086	978	22	13
ゾメタ	悪性腫瘍による骨転移	182	164	5	210	189	11	392	353	14	8
フェマーラ	乳がん	150	135	22	191	172	10	341	307	22	15
ルセンティス	加齢性黄斑変性症				374	337	44	374	337	64	44
サンドスタチン	先端巨大症	123	111	9	193	174	11	316	285	17	10
Exelon/Exelon Patch	アルツハイマー病	99	89	27	168	151	12	267	240	28	18
ネオーラル/サンディミュン	移植	24	22	20	220	198	2	244	220	12	4
ボルトレン (OTC 除く)	炎症/疼痛	2	2	100	218	196	7	220	198	16	8
エックスフォージ	高血圧症	63	57	43	133	120	56	196	177	66	52
トップ10 製品 計		1 596	1 438	13	3 454	3 110	13	5 050	4 548	21	13
エクジェイド	慢性鉄過剰症	68	61	10	115	104	25	183	165	26	18
ローコール	高コレステロール血症	31	28	-18	108	97	-10	139	125	-7	-13
コムタン/Stalevo	パーキンソン病	59	53	13	93	84	14	152	137	21	13
Reclast/Aclasta	骨粗鬆症	100	90	69	47	42	54	147	132	73	65
リタリン/Focalin	注意力欠如障害/多動症候群	88	79	-10	32	29	23	120	108	0	-4
テグレートール	てんかん	18	16	-44	74	67	3	92	83	-5	-12
Foradil	ぜんそく	4	4	33	89	80	6	93	84	15	6
Myfortic	移植	36	32	44	61	55	16	97	87	37	24
ゾレア	ぜんそく	34	31	325	86	77	69	120	108	118	100
Lotrel	高血圧症	78	70	-13				78	70	-13	-13
トップ20 製品 計		2 112	1 902	13	4 159	3 745	14	6 271	5 647	21	13
その他製品		366	329	10	1 136	1 022	13	1 502	1 351	21	12
医薬品売上高 計		2 478	2 231	12	5 295	4 767	14	7 773	6 998	21	13